

③ 梁川町の^{でんせつ}伝説

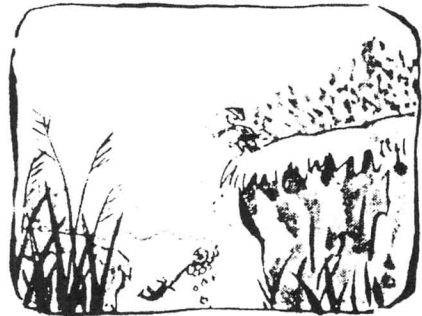
梁川町にはたくさんの伝説がのこされています。

伝説は、むかしから、人の口から口にかたり伝えられてきてもので、そせんの考えや、もののおこり、古いじだいのようすがよくわかります。くわしくは梁川町史第12巻、口伝^{くちつた}編^{へん}や梁川^{かいてつしよ}ざっと昔かるたの解説書にまとめられています。

しお 塩のふち (梁川地区)

むかし、^{そうま}相馬から梁川に馬で塩をはこんでいたころの話です。馬をひいていた馬かたが、あやまっ
て塩もろとも馬を川におとしてしまい、ころしてしま
いました。のちに人々が、この川の水が塩からいことを知
り、これは馬のたたりだということで、馬のたましいを
なぐさめるため、小さなほこらをたてました。それから、
この馬のおちたふちを塩のふち、ここから下流を塩の川
とよぶようになったということです。

ほかに、よく知られている伝説には、次のようなものがあ
ります。



- 粟野地区—粟野じぞうのおこり
- 富野地区—かにおち・おに石かんのん
- 五十沢地区—うんかいというぼうさんの話
- 山舟生地区—山舟生七ふしぎ・千本松
- 白根地区—くるか橋・^{らいじん}雷神さまの水
- 堰本地区—ふたごづか・てんぐのすず
- 大枝地区—こむそうづか・五りんどう
- 梁川地区—あしなぎ・かた葉のはし



4月～10月の毎週日曜日、午後2時から
里美庵で開かれる昔話のつどい



おに石



心字の池
(かた葉のあし)